

## LPガスCP速報(2022年2月積)

### 1. 2月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **775**  $\text{ドル}$  (前月比+35  $\text{ドル}$ )

ブタン **775**  $\text{ドル}$  (前月比+65  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が2014年10月以来の高値を更新するなか、LPガス需給は、東アジアの気温低下で冬季需要が本格化、石化用の需要も堅調だが、高在庫などにより引き合いは弱くタイト感は薄い。中国の春節(旧正月)需要は上旬で一服したが、中旬以降、PDH、韓国石化などスポット入札も散見され、市況を下支えした。LPガス市況(極東CFR)は、第1週に急騰、プロパン770  $\text{ドル}$ 、ブタン760  $\text{ドル}$ に達し、その後も堅調に推移、第3週末にはプロパン、ブタン750  $\text{ドル}$ まで軟化したものの、寒波と原油高で第4週には反騰している。

米国では、プロパン輸出は振幅が大きいものの堅調、需要は中旬に過去最高を記録するなど高水準が続いている。全米プロパン在庫は暖房需要期で7週連続の減少、直近で前年同期比94%に回復も、5年平均レンジの下方に張り付いている(グラフ②はメキシコ湾)。米モンベルビュープロパンスポット価格は、上旬は570~580  $\text{ドル}$ 台で推移していたが、中旬には600  $\text{ドル}$ 突破、直近では630~640  $\text{ドル}$ 台に続伸している。月間平均は前月比70  $\text{ドル}$ 上昇の605  $\text{ドル}$ どころ(グラフ①)。低在庫をもたらした昨年2月の米国大寒波を彷彿とさせる冬の嵐が米北東部を襲っており、暖房油種の高騰が顕著になってきた。

フレート市況は、上中旬に揚げ地の滞船もあり高値で推移していたが、中東市場の渋滞の解消と2月上旬の船舶需給が緩和し第3週に急落した。米国輸出は堅調であったが、米国FOB価格と極東着価格の売差が縮小、採算悪化で買戻しやキャンセルもあり、フレートも軟化。

ナフサは原油価格に連動、上旬の740  $\text{ドル}$ どころから下旬には800  $\text{ドル}$ を突破した。月間平均は775  $\text{ドル}$ どころで、前月比75  $\text{ドル}$ の反騰、2014年10月以来の高値となった。

バンカーオイルは原油市況に追随して大幅高、シンガポールIFO380は月間平均で前月比57  $\text{ドル}$ 高の489  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同93  $\text{ドル}$ 上げの742  $\text{ドル}$ どころ、両油種の格差は253  $\text{ドル}$ に拡大した。

2月CPは前年同月比プロパン170  $\text{ドル}$ 、ブタン190  $\text{ドル}$ それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン10、ブタン5ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパン25、ブタン21ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	70	73	62		
CP先物指標:P	740	740	755		
CP先物指標:B	735	735	745		

#### ② 原油市況等

1月の原油市況をみると、WTIは76  $\text{ドル}$ 台でスタートしたが、その後は右肩上がり26日には2014年10月以来の87.35  $\text{ドル}$ まで上昇した。世界各国の新型コロナオミクロン変異株感染拡大による需要減退懸念が後退、ウクライナ情勢緊迫化やUAEに対するイエメン反政府武装組織フーシ派の攻撃など地政学的リスクの高まりが市況を引き上げた。また、OPECプラスは協調減産の段階的縮小計画(毎月40万b/d)を維持していくとみられているが、増産目標は進捗しておらず、需給タイト感の一因となっている。一方、米国金融市場は、FRBが早期の金利引き上げを打ち出し、リスク回避で株式市場は急落、調整局面を迎えているが、商品先物市場は、アナリストが次々と原油市況100  $\text{ドル}$ 突破の見通しを発表、ファンド筋の資金流入もみられ、ボラティリティ(変動率)の高い状況が続いている。

○1月積みアラビアン・ライト(1月1~28日までの想定)は86.80  $\text{ドル}$ (前月比+10.64  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン711.67  $\text{ドル/トン}$  ブタン701.91  $\text{ドル/トン}$

AL比 プロパン108.90% ブタン110.41%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

## 2. 2022年2月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

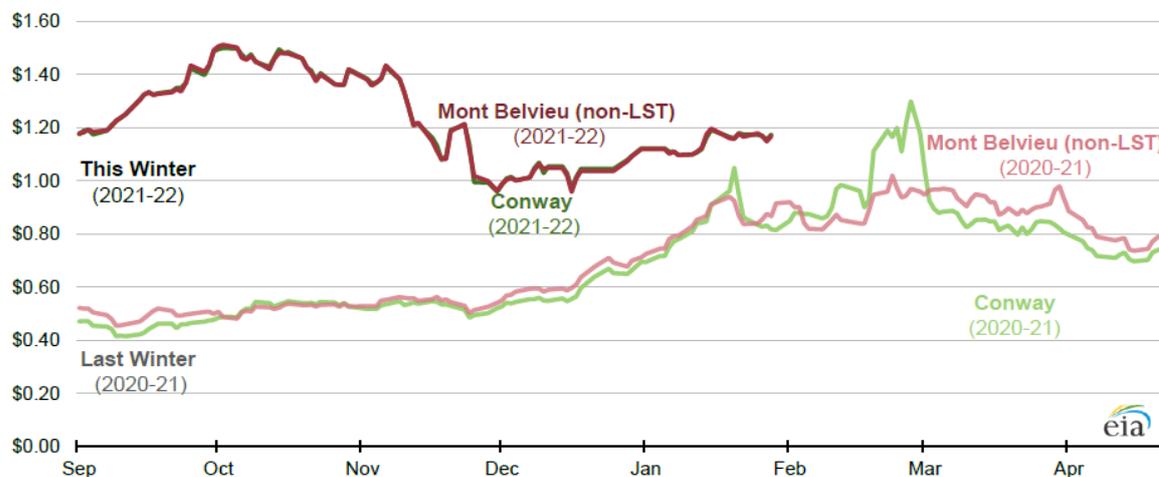
適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	115.85	95,100	93,300	93,800	-300	+2,100	+2,400
②末日締め	115.85	95,100	93,300	93,700	-300	+2,200	+2,400

\*TTS平均について、①が12月21日～1月20日、②1月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは1月27日までの価格を基にEINで試算（605ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移

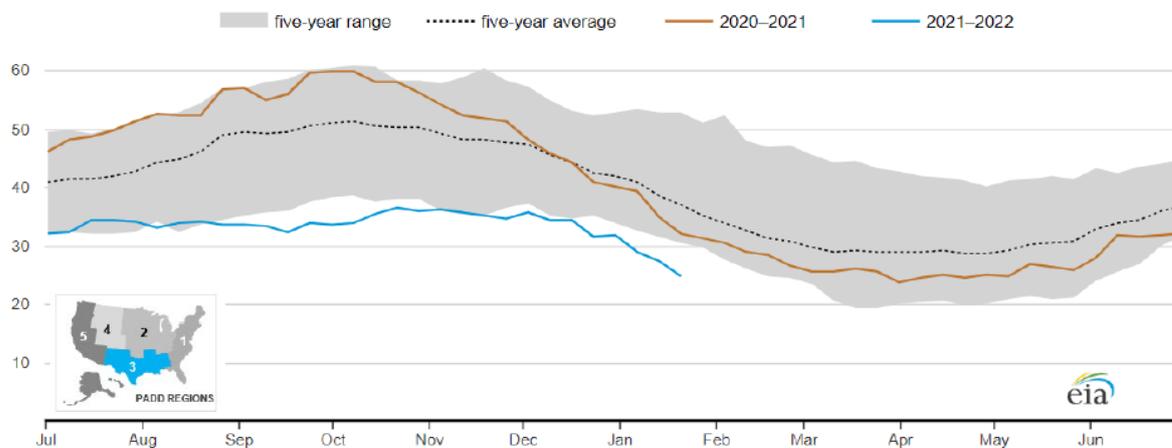
Propane spot prices (Conway, KS and Mont Belvieu, TX)  
dollars per gallon (\$/gal)



Source: Graph created by the U.S. Energy Information Administration, based on data from Bloomberg, data through January 25, 2022

### ②米メキシコ湾岸プロパン在庫推移

Gulf Coast (PADD 3) propane/propylene inventories  
million barrels



Source: U.S. Energy Information Administration, *Weekly Petroleum Status Report*, January 26, 2022  
Note: PADD 3 is composed of Alabama, Arkansas, Louisiana, Mississippi, New Mexico, and Texas.